

福岡県勤労者山岳連盟第46回定期総会（案）

はじめに

政権が代わり2年目を向かえた、変化が期待された新政権であったが社会的な改善が目に見えてこない。

ボーナスの支給や小売店の売り上げなど一部に前年を上回ることがあるものの、若年層の就職難は過去最悪となり、後期高齢者医療制度や介護保険制度、障がい者自立支援法などの改定は高齢者や障がい者の生活を脅かしている。

格差と貧困に対する具体的対策は示せず、一般国民の将来生活設計は見通しが暗い。

新政権でも首相が一年ももたず交代し、米軍基地問題や尖閣諸島問題、TPPなど外交でも適切な対応が出来ていないため現内閣も支持率が低迷している。

夏山シーズンは観測史上最も暑い夏となり、9月にも猛暑日が続いた。地球温暖化の前兆なのか近年の異常気象は遭難事故を発生させるだけでなく、シカの食害や熊の出没など生態系にも影響があり、これは登山者としても無視出来ない問題となっている。

平和の問題では広島平和記念式典に、初めて原爆を投下したアメリカの駐日大使が参列した、また国連事務総長の蕃基文氏が広島と長崎の平和記念式典に参加した。これは原水爆禁止運動と平和あつての登山にとって大きな前進といえる。

「安くて安全で楽しい登山」は肉体的な健康の増進と精神的なストレス解消に役立ち、健康保険制度の負担軽減や自殺防止、凶悪事件への抑止力としても期待できる。

このように、国民生活にとって大事な登山活動を支え、継承発展させることが使命として社会的にも求められている。

2010年度のまとめ

福岡県連盟の組織は会員の減少傾向に歯止めがかからず、千名台を割り込みました。また組織実態調査と県連会費納入がリンクされておらず、3ヶ月前納制も全体のものになっていませんでした。

組織部、財政部の地道な努力によりこれまで会費納入のバラツキが、組織実態調査に基づく会費納入3ヶ月前納制が定着しました。

組織拡大では、各会のHPの活用により新入会者が増え千名台を回復しました、これは県連に加盟している各会のご協力のおかげです。

会員拡大の一つの要素としてHPの活用が関係していると理事会等の会議報告があります。2年ほど更新が遅れていた県連のHPも今年の夏より、固定の

担当者が付くことで、更新が充実し閲覧件数が飛躍的にあがりました。

労山の「新特別基金」がスタートし新保険業法施行から既に約5年に近い時間が経過した、国会では昨年共済救済の法律案が成立したが、自主共済にはまだ高いハードルがあり金融庁「政省令」の細かいルールが始まるが注意深く監視が必要、「福岡県懇話会」に引き続き参加し適用除外の運動をします。

九プロでは、10月30日～31日「2010年度九プロ遭難対策訓練」 in 霧島を、えびね高原で行い98名が参加して、救急救命の講習会は判りやすい説明でよかったと大きな成果をあげました。

教遭部 昨年度より取り組んでいるリーダー研修会は今年度11月裏英彦山で16名の参加で実施、地図とコンパスでルート開拓し参加者貴重な経験となった。

またボード講習会、沢登り交流や冬山交流登山を実施した、山岳事故報告は7件で、そのうち死亡事故は1件ありました。

自然保護部 春の63回清掃ハイクは29会が実施・会員412名、会員外62名となった。秋の清掃ハイクは28会、「山のトイレ協議会」も参加し、会員391名、会員外93名が参加した、登山口トイレ調査は今年度中まとめ報告します。

海外委員会 9月ネパールヒマラヤ遠征、登山隊5名参加したが、隊員の高度障害もあったが「タシカンⅢ峰」(6,157m)「ヤラピーク」(5,500m)の登頂に成功した。

海外登山報告会を「ラリーグラス」の2Fで開催しました、県連主催を入れ海外遠征は14回でした。

組織部 今年度も筑後地域でハイキングセミナーを行い5名の参加を得たが修了者は4名となったが、意見交換会で「いずれかの会に入会し山行を続けたい」「柳川地区に入会できる会があるといいが」との意見がありました。

組織動態調査を実施したが、動態調査表の回収が前年度に比べ若干改善しましたが、いくつかの会は再三連絡しないと集計報告が出来ない状況であります、大事な基礎データです迅速に対応して下さい。

組織について新規加盟はありませんが、九産大とは連絡がとれず脱退会の取り扱いを検討中です、11月現在県連組織は千名台を回復しました。

中高年部 例年通り7月に「体力測定」9月に「eペース登山」11月「講演会」を実施し参加者はそれぞれ16名、34名、28名でした。

今年度「中高年登山教室」を開催し20名が参加しました、2011年1月23日竈神社集合しアイゼン歩行等を実施、初めての取り組みで、雪山登山となったが予定の課題を消化し安全山行ができた。

女性委員会 今年度、女性委員長を女性常任理事から選出、担当副会長と相談しながら女性担当者会議の開催や、労山50周年記念「田部井淳子さん講演会」に積極的に取り組み、第2部では登山の安全をテーマにした寸劇「山の娘劇場」を上演に大好評でした。

第26回「山の娘のつどい」を北山少年自然の家で久留米地区担当で開催しました、13会82名の参加がありました。

「山の娘つどい」は女性の自立した登山を目指す活動や女性の持つ能力を引き出しリーダー育成の役割を果たした。

登山学校 Aコース8名、Bコース10名、ACコース3名の受講生を迎え、講師不足を心配しながら実施した。今年度の修了生はAコース4名、Bコース5名、AC0名（全員）計9名となった。

機関紙部 機関紙部長は選出出来なかったが、機関紙担当を常任理事より選出し、機関紙会議を開催した、担当者及び事務局の懸命の努力にて記事集め、印刷、発送まで順調に発行された。

救助隊 6月に総会を開き8月瑞梅寺にて救助訓練を実施した、参加者は
名。

今年6月阿蘇鷲ヶ峰において会員の遭難死亡事故が発生、ただちに救助捜索態勢をとり、平日にもかかわらず多数の救助隊員が参加しました、救助隊により遭難者発見し早期収容を果たしました。

事務局では毎週水曜日県連事務所にて事務処理を行い、会計処理、郵便物の発送処理、原稿依頼等、事務局スタッフの手を借りながら事務処理をしてきましたそのご苦勞に感謝申し上げます。

また、県連事務所の清掃を福岡地区の各会のみなさんに依頼しています、畳拭きやトイレ掃除等大変な仕事をして戴いていることに感謝申し上げます。